

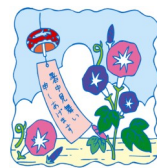


市民力かわる版



第6号

平成20年7月15日
編集/市民力かわる版編集委員会
発行/矢板市秘書政策室
電話: 0287-43-3764
ファクス: 0287-43-2292
Eメール: yaita@city.yaita.tochigi.jp



豊かな自然を取り戻す ホタルの里に人の輪が広がっています

六月の中ごろから矢板市内の各地でホタルが飛び始めました。夕闇が迫り辺りが薄暗くなったころ、ホタルは小さな体を輝かせ飛び交います。実はこのホタル、地上に出て輝き始め私たちの目を楽しませてくれるのはたった二週間に過ぎません。後のほとんどの時間は、水の中や土の中で過ごします。

当たり前のようであった風景を私達は少しずつ失っています。ホタルの飛び風景もその一つに挙げられます。各地域ではさまざまな工夫でホタルの里づくりが行われ、毎年その数を増やしているそうです。「失いつつあるものを自分たちの手で取り戻す」、そのような各地域の取り組みを紹介します。

泉地区 【ほたるの里作り】

泉地域では「ホ会・協力団体などで構成され、地タルが飛んでるよ、域住民全員が参加しています。もっと増やしてみよう」という住民の一言から平成十四年に「ほたるの里づくり推進会議」が設立されました。

活動内容は①ホタルの飼育・放流活動（ホタルの幼虫の飼育・ホタルの餌カワニナを増殖して放流）

②ホタルの生息にふさわしい環境整備活動（指定地域周辺の清掃、草刈などの水辺の整備と生活排水を川に流さないきれいな水作り）。

特に環境整備活動は、地域住民一人ひとりの協力が不可欠です。加えてヘリコプターによる農薬の空中散布の中止や、薬品・洗剤の改良なども行われました。

そして泉地域の環境保全と高原山より流れ出るきれいな水を後世に残すため、各地域河川にホタルの生息地を指定し、人々の環境に対する関心を高めながら、子どもたちの情操教育を推進し、併せて地域の活性化と環境美化に寄与することを目的として活動が始まりました。メンバーは、各指定地区の代表・子ども会・育成会・老人



タルが見られるようになりました。指定地域では数多くのホタルが自生し始めています。こうした

そういった住民の努力が昨年から実り、指定された地域以外にもホ

結果は住民の定期的な環境整備活動のたまものといえます。

泉地区は現在十二カ所の地域を指定し「ほたるの里」の看板を立て、解放しています。「ホタルの生息する環境作りを目指すことによって、地域の方が自然環境の大切さを理解し、人とのコミュニケーションが図れ、地域の活性化につながった」と泉公民館長は語っていました。ホタルの乱舞は見る人を楽しませてくれますが、見る人は次の点注意・留意願います。

- 車の駐車には配慮し、ライトはつけっぱなしにしない。
- 声高で話をしない。
- ゴミは持ち帰る。



ホタル 豆知識

ホタルはその一生を終えます。その幼虫として一カ月で孵化（ふか）します。ホタルの餌はカワニナ（巻貝の一種で餌はクレソン、キャベツを食べる）。

（その間）

六回脱皮、その後土の中で四十日過ごし、さなぎになり、十日ほどで成虫になります。光り始めたホタルの寿命は二週間あまり。光り始めの後十日から二週間で産卵し、メスは一節光ります。

ホタルの光は求愛信号。オスは飛びながら光を点滅させ、草陰にとまったメスが光の信号を返すと求愛は成功です。発光器は尻にあり、オスは節、メスは一節光ります。